



紙飛行機で飛ばした複雑  
世界はシンプル

どこへ行っても、人間の集いの中では“挨拶”というものが存在する。

「おはようございます」

「よろしくお願いします」

と律儀に頭を下げる挨拶から、

「こんにちはっ」

と軽く投げかけるように言うもの、場合によっては

「ようっ！」

と手を上げて互いの存在確認をするだけでもそれは挨拶と言えれば挨拶だ。

時には道行く赤の他人にまで挨拶をする愛想の良い人もいる。

意味があるか効果があるかは別にして、挨拶をされて不快に思う人はいないと思う。

プラスの効果はあっても、マイナスの効果はないのが普通だ。

全く効果がない状態がゼロだとすると、常に挨拶をされることはゼロ以上の効果があるのだ。

では、こちらから挨拶をする場合はどうだろうか？

相手から同等の挨拶の返答が返ってくるものだという前提で挨拶をした場合は、返事が返ってくればそれはプラスだ。しかしこの場合、返事が返ってこなかった場合マイナスに成りうる。

“自分が挨拶をしているのに返さないなんて”

不安になったり、人によっては腹を立てる人もいるだろう。

そしてそのマイナスの度合いは、相手が身近な存在であるほど強くなる傾向があるだろう。

もちろん親友や恋人や家族など、挨拶が返ってこなくても気づいていなかったんだろうと思えるほど信頼し合っている間柄なら別の話。

しかし、ある程度近いがそんなに親密というわけではない、例えば会社の別の部署の同僚だとか、隣のクラスのそれほど仲良くはないが

たまに同じグループで一緒に過ごす友人だとか・・・・・・・・。

挨拶を無視されたと解釈すると、その後、しばらく不快を感じて自問自答に陥ってしまうことがしばしばある。

挨拶は人間の愛情表現の一つ。互いの信頼関係を確認し合うための大切な手段だ。

例えば言葉を持たない動物などは、その姿勢で信頼関係を示し合う。代表的なのが犬だ。

見知らぬ他人など、自分が警戒心を持った相手に対しては怒りを前面に出して、眉間にしわを寄せて低い声で吠えるが、信頼しているご主人様にはしっぽを振って寄ってくる。また、怒られた時にも、刃向っても勝てないと悟っている主人に対しては、しっぽと耳を下げて服従の姿勢を取る。

言葉を持たない動物は、仲間や敵に自分の意志を伝えるためには姿勢で示す以外に方法はないのだ。

しかし人間は言葉を持っている。

よって、動物のように姿勢で示す必要はない。

挨拶は言葉を使ったもっとも基本的な信頼関係を伝える手段なのだ。

俺は毎週日曜の朝に、近くの河川敷内の公園へ行ってサッカーをしている。

一定の時間に人が集まってゲーム主体にやるわけだが、本格的なクラブのようにレベルは高くない。まあ一つの集まりのような感じでワイワイやっているサッカーサークルだ。

—————体験版はここまでです。—————  
続きは商品をご購入ください。